

複雑な英国のオープンアクセス計画 (Eliot Marshall)

Marshall, Eliot. A Mixed Bag of U.K. Open-Access Plans. *Science*. Vol.313, 7 July 2006, p.29-30.

英国ケンブリッジ発—先週、英国でオープンアクセス運動は勝利を記録したが、提唱者の一部が望んでいる研究論文の無料公表の一般的な義務化は獲得しなかった。6月28日の遅れに遅れた方針声明の中で、政府助成機関の連合組織である英国研究評議会 (RCUK: Research Councils U.K.) の理事会は、公的資金を受けた研究の成果であるすべての査読雑誌論文 (peer-reviewed journal papers) は、それらの完了後すぐに無料で利用できるようにならなければならない、と述べた。それが正確に意味するものは明白ではないが、RCUK は各研究評議会が独自の規則を制定するように委ねた。それに協調した声明の中で一部の評議会は厳しい方針を立案する一方で、他の評議会はまだどうするかについて検討している、と述べた。

最も厳しい方針は、生命医学研究助成における年間約4億ドルの資金源である、医学研究評議会 (MRC: Medical Research Council) によるものである。それは、査読雑誌に受理されたいかなる論文も最も早い機会—必ず6ヶ月以内—to、米国医学図書館 (U.S. National Library of Medicine) が運営する無料の公開アーカイブである PubMed Central に保管すべきである、と宣言した。MRC は英国のミラー・アーカイブが構築途中であると述べ、その準備が出来次第、MRC 助成論文はそこに行くだろう。その原則は2006年10月以降の助成に適用され、MRC の広報担当者は、6ヶ月の時計が論文の出版日付から動き始めると説明する。

応用研究プロジェクトを支援する生命工学・生物科学研究評議会 (BBSRC: Biotechnology and Biological Sciences Research Council) は、もっと柔軟な路線をとった。それは、論文は「できる限り早い機会に」提出され、「適切なeプリント・リポジトリに」保管されるべきであると規定した。他の声明はやや正確さを欠く。例えば、工学・物理科学研究評議会 (Engineering and Physical Sciences Research Council) は、「問題は複雑であり」、さらに検討されなければならない、と述べた。その評議会は2008年が期限の研究成果を待たせよう。素粒子物理学・天文学研究評議会 (Particle Physics and Astronomy Research Council) は、単に「今何を変更する必要があるかどうかについて検討するだろう」と述べたに過ぎない。

MRC が厳しい最終期限を設定したというニュースは、例えばロンドンに本拠がある商業科学出版者で、読者というよりもむしろ著者への課金を原資としている、BioMed Central のようなオープンアクセスの提唱者の一部から評価を得た。「それは大変重要なステップである」と出版責任者 Matthew Cockerill は述べた。「その他の多くの助成機関はそれほど進んでいない。」MRC は、英国最大の民間研究助成機関で生命医学について年間8億9千万ドル支出する、ウェルカム財団 (Wellcome Trust) の後に続いている。昨年、ウェルカム財団は、被助成者に対して、正式出版後6ヶ月「以内に」公表できるように PubMed Central に受理論文を提出しなければならない、と述べた。

Cokerill によれば、MRC の決定は、英国のほとんどすべての新たな生命医学論文がオープンアクセス原則の支配を受けることを意味する。一方、米国では、国立衛生研究所(NIH: National Institute of Health)の助成を受けた論文を出版 12 ヶ月以内に PubMed Central への保管を要求する法案を議会が検討している (*Science*, 16 June . p.1585)。

また、Cokerill は MRC の発表で、政府がオープンアクセス雑誌での出版経費を支払う可能性を示していることに勇気づけられていた (ウェルカム財団はすでに著者に補償している)。しかし、他の人々はオープンアクセスへの移行費用が上昇していることを懸念している。BioMed Central は 1 論文当たり、1,380 ドルから 1,750 ドル課金している。Cokerill はこれらの料金で「収支がトントンである」と報告している。米国に本拠があり、創設基金の補助を受けている *Public Library of Science* は、最近 1 論文当たりの最高料金を 1,500 ドルから 2,500 ドルに値上げした。そして、ロンドンの王立協会 (Royal Society) が 6 月に開始した実験的なオープンアクセス雑誌、*EXis Open Choice* は、1 ページ当たり 415 ドルから 553 ドル徴収する計画である。予約購読ではない出版 (No-subscription publishing) は非常に高額となる、とロンドンを中心に活躍するコンサルタント Mary Waltham は述べ、先週 RCUK が新しい財政支援を約束するオープンアクセス方針を支持しなかったのを見て「多くの出版者が落胆した。」

RCUK は予期しない領域への移行を認めている。費用とリスクを調査するために、RCUK は雑誌論文の無料提供の義務化の影響の 2 年間の分析に加わる、3 つの主要な企業 (Macmillan, Elsevier および Blackwell) を採用している。それはこれらの方針を 2008 年に評価するだろう。